

かかわりを大切にして、よりよく考える子どもの育成

～新聞活用を通して、思考力・判断力・表現力を高める授業実践～

新潟市立新津第一小学校

1 NIE実践のねらい

【目指す子どもの姿】

子どもが興味関心をもって学習課題に取り組み、既習の学習内容等を生かして課題解決の見通しをもち、自分の考えを理由や根拠を基にして分かりやすく表したり、友達の考えを聞いたりしながら、自他の考えを発展させていく姿。

【目指す子どもの姿を実現するために】

- 教科・領域等を限定せずに職員一人一人の教科専門性を生かし、子どもが思考する授業を実践する。
- 新聞を用い、考える意欲を喚起したり、考えさせたり、考えを補完したりする。
- 指導案に授業のどの場面で、どのように活用するか「新聞活用の方策」を明記し、問題意識をもって授業研究に取り組む。(板書計画も含む)
- 次のような場面を設定し、児童が思考する場を保証する。
 - ・ 子どもが、考えてみたくなる、話したくなる教材(問題)を導入し、気付きやつぶやきを引き出す。
 - ・ 教材(問題)と既習や経験を比較し、相異点からは「ずれ」、共通点からは「見通し」をもたせることで、主体的に思考する場面を設ける。
 - ・ 相手意識や目的意識をもって、根拠や叙述などを元にして自分の考えを表現する場面を設ける。
 - ・ 自他の考えを見直し、それぞれの考えの良さを全体の考えやきまりにまとめる場面を設ける。
 - ・ 自分の考えがどのようにして、出来上がったのかを振り返る場面を設ける。

2 本年度実践の概要

(1) NIE 1年目研究から見えてきたこと

- どの教科・領域等の授業でも新聞が活用できる。
- 授業の導入で新聞を活用することで、子どもの興味関心を引き出したり、意欲を高めたりできるのではないかな。
- 授業の展開で新聞そのものを考える対象として授業を構成することで、魅力的な授業ができるのではないかな。
- 授業の終末で新聞を活用することで、本時の学びや考えを深めたり、広めたりできるのではないかな。

(2) 2年次(平成28年度)の取組

①内容

ア 1年目研究から分かった新聞活用の視点から、授業における新聞活用の在り方を探る。

〈新聞活用の視点〉

- a 様々な教科・領域等での活用
- b「導入での活用」→考える意欲付け・意欲喚起
- c「展開での活用」→考える対象
- d「終末での活用」→考えの補完や考えを適用する対象

イ 視点を明確にした言語活動を行う。

指導案の冒頭に「授業構想のポイント」として以下の項目を記述する。

- ・学習課題に対する問題意識を高める手立て
- ・主体的・協働的な学習を促す手立て

以上の手立てと本時の留意点とを対応させ、新聞の活用場面を明記。また、当校で設定したUDLの視点も加え、視点の明確な言語活動の実現を図る。

②方法

全ての学級担任が年間2回研究授業を行い、成果と課題を検証する。また、職員一人一人の専門性を生かし、教科・領域等は限定しない。

③授業の実際

〈6／15 授業及び新聞活用の場面〉

1－1 道徳（終末）、1－2 音楽（導入）、1－3 図工（導入）
2－1 算数（導入）、2－2 国語（導入）、3－1 音楽（導入）、3－2 理科（展開）
4－1 国語（展開）、4－2 社会（導入）、5－1 図工（展開）、5－2 国語（導入）
6－1 算数（導入）、6－2 国語（展開）、6－3 体育（導入）
特別支援学級 生活単元（導入）

指導者 指導主事 石塚 崇 様 指導主事 小林由希恵 様
指導主事 間嶋 雅樹 様 指導主事 白澤 陽子 様

〈12／9 授業及び新聞活用の場面〉

1－1 道徳（展開）、1－2 音楽（導入）、1－3 図工（展開）
2－1 算数（導入）、2－2 国語（展開）、3－1 音楽（導入）、3－2 理科（終末）
4－1 国語（終末）、4－2 図工（導入）、5－1 学活（展開）、5－2 国語（展開）
6－1 算数（展開）、6－2 国語（展開）、6－3 体育（導入）
特別支援学級 生活単元（導入）

指導者 指導主事 長谷川聡実 様 指導主事 藤井 正人 様
指導主事 羽田 雄偉 様

（3）NIE環境

- ① 全クラスに「朝日小学生新聞」と「週刊ふむふむ」を



購読できるようにしている。(朝、新聞棚に職員が新聞を入れ、それを各クラスの係児童が教室に持って行く。)

- ② 毎週水曜日の朝学習を「NIEタイム」に位置付け、日常的に新聞に触れる時間としている。
- ③ 「NIEタイム」では全校が新聞スクラップ活動を行い、個人用の「NIEファイル」に綴じて、家に持ち帰り、保護者に見てもらいコメント等をもらっている。
- ④ 廊下、図書館など校内の様々な場所に新聞コーナーを設置し、日常的に新聞を見たり、読んだりできるようにしている。
- ⑤ 昼の放送で毎日放送委員会の児童による「今日の一面」コーナーを設定し、記事を紹介している。



3 授業実践例

(1) 1年道徳 「同じ大切な一つの命[D(17)生命の尊さ]」 【導入・展開で新聞活用】

活用資料：朝日小学生新聞「2016年7月3日の記事」「2016年7月17日の記事」「2016年7月31日の記事」ほか(「前川貴行の生き物の地球」より)

〈本時のねらい〉

①学習内容・学習課題	動物写真家の前川さんが人間と動物をどう考えているのかについて、
②目指す姿にするための活動・手だて	動物の写真を撮り続ける中で感じた生命に対する前川さんの考えを交流することを通して、
③本時で目指す姿	人間も動物も対等な存在であり、同じ大切な一つの命であることに気づき、記述できる。

〈本時の実際〉

学習活動	T：教師の働き掛けC：児童の反応○：問題◎：学習課題（※：省略部分の概略）	
人間と動物の違いを捉える。	※	人の活動や動物の写真を提示し子どもたちの学習意欲を高めて新聞記事の写真で問題提示。
前川さんが動物の写真を撮りながら起きた出来事を紹介しながら、前川さんの気持ちやそう思った理由について考える。	○	人間と動物のことについて考えよう。
	T 1	：この人の名前は、前川貴行さんという動物写真家です。猿を撮影している時のことです。
	※	自作の紙芝居で前川さんが猿に足をかまれたエピソードを紹介。
	T 2	：腫れ上がった足を見ながら、前川さんはどんなことを考えていたと思いますか。
	C 1	：なんでかむんだよ。ひどい猿だな。
	T 3	：そう思うよね。しかし、前川さんは、「このボス猿は、自分の役目をちゃんと果たしたんだな。」と思ったそうです。どうしてかまれてもボス猿のことを悪く言わなかったのでしょうか。
	C 2	：自分が悪いことをしたと思ったから。
	C 3	：ボス猿の気持ちになって考えて、しゃべれないのでかんだと思



	T 4 ったから。 : そうだね。前川さんは、ボス猿の立場 ◎ 前川さんは、人間と動物についてどちらがえらいと考えているのだろうか。 C 4 : ボス猿にかまれても猿のことを悪く言わなかったから人間と動物は同じと考えていると思う。 C 5 : いろいろな動物の写真を撮っているということは動物が大好きなので、動物の方がえらいと思っている。 T 5 : 他にも前川さんは、ゴリラに腕をつかまれたり、自分よりはるかに大きいシカとばったり会ったりして、写真を撮る中であることに気付いたそうです。 人間と動物に上も下もなく、同じ大切な一つの□だと。この□ C 6 には、どんな言葉が入ると思いますか。 C 7 : いのちじゃないかな。 T 6 : 仲間だと思う。 : 前川さんは、自然の中にいると人間の方が上だとか動物の方が下だとかということではなく、自分も動物も同じ <まとめ> 人間と動物に上も下もなく、同じ大切な一つのいのちをもった地球の仲間。
手紙を書くという形で、学習を振り返る。	T 7 : それでは、今日の道德の授業を通して感じたことや考えたことを書き、前川さんへの手紙にしましょう。書き終わった人から黒板に貼り、友達が書いた手紙を読んでみましょう。



〈本時の新聞活用の反省〉(成果○・課題△・代案□)

- 本時では、朝日小学生新聞の連載である「前川貴行の生き物の地球」で掲載された動物の写真を複数枚活用した。迫力ある動物の写真を用いることで、前川さんの動物に対する思いや生命あるものを尊ぶ気持ちを子どもたちが感じることができた。
- △ 新聞の写真のみだとN I Eとしての新聞活用としては弱いのではないかと協議会でご指摘をいただいた。
- 導入で動物の写真を提示する際に、見出しを提示してどのような動物かを想像させるなどの工夫をすることで、写真だけの新聞活用としての弱さを補完する。

(2) 3年音楽「せんりつのとくちょうをかんじとろう」

【導入で新聞活用】

活用資料:新潟日報「2002年7月15日の記事」「2003年5月1日の記事」「2013年6月30日の記事」

〈本時のねらい〉

①学習内容・学習課題	「ふじ山」の旋律の音の上がり下がりを考えて、強弱や音色に工夫して歌うことについて、
②目指す姿にするための活動・手だて	どこをどのように歌えばよいのか考えたり、「ふじ山」の旋律の特徴や曲の山を捉えたりするグループ活動を通して、

③本時で目指す姿	曲想にふさわしい歌い方の工夫を取り入れて、グループで歌うことができる。
----------	-------------------------------------

〈本時の実際〉

学習活動	T：教師の働き掛けC：児童の反応○：問題◎：学習課題（※：省略部分の概略）
「ふじ山」をみんなで歌う	※ 本時は単元全8時間中の7時間目で、「ふじ山」は既習曲。前時までの復習をかねて歌って導入し、問題提示。
新聞記事を使って、富士山の高さを確認する。	○ ふじ山の情景を思い浮かべ、曲の感じや歌詞の内容に合った歌い方の工夫を考えよう。 T1：今日は、富士山の高さについて、新聞を使って確認してみましょう。ここに朱鷺メッセの高さが書かれている新聞記事があります。高さは、何メートルでしょう。 C1：140メートルです。 T2：富士山の高さは、何メートルでしょう。富士山の高さについて書かれている新聞記事があります。読んでみます。 C2：3776メートルだ。 T3：富士山と朱鷺メッセを比べてみましょう。富士山は、朱鷺メッセの約27個分で、ものすごく高いんですね。 C3：高い。見てみたいなあ。 T4：では、高さでも日本一の富士山をイメージして、「ふじ山」の歌の歌い方の工夫をしてみましょう。
学習課題を確認し、グループで歌い方の工夫について考える。	◎ 曲の山と旋律の音の上がり下がりを考えて、強弱や音色を工夫して歌うには、どこをどのように歌えばよいだろうか。 T5：今までどんな工夫をしてきましたか。 C4：旋律の音の上がり下がりを見て、工夫を考えました。 T5：曲の山はどこでしょうか。付箋に自分の考えを書き、グループで話し合いをしたら、拡大した楽譜に書き込んで、歌ってみましょう。 C5：声を強くしたら、日本一の富士山の高さが表せるかな。 T6：グループで考えた工夫をしながら、歌ってみましょう。聴く人は、友達の工夫のよさを見付けましょう。 C6：ぼくたちのグループは、曲の山が4段目だと考えました。「富士は日本一の山」と作った人の気持ちがあるからです。日本一高い富士山を思い浮かべてのびのびとした声で歌います。 ※ ～グループで歌う～ C7：4段目を強く歌ったのでよかったです。 〈まとめ〉・4段目の曲の山に向かって、3段目をクレッシェンドで歌う。 ・4段目を、強く大きく響きある声で歌う。
まとめを意識しながら振り返りに歌う。	T7：今日の学習を振り返ります。グループやクラスで考えた歌い方の工夫をしながら、「ふじ山」を歌いましょう。



〈本時の新聞活用の反省〉（成果○・課題△・代案□）

- 本時で用いた新聞は、「新潟日報2003, 5, 1」に掲載された「31階140メートル 期待天高く朱鷺メッセ」の記事と「新潟日報2002, 7, 15」に掲載された「負けない貫録 荒々しさの美 富士山」の記事である。子どもたちが校外学習で行った朱鷺メッセと富士山の高さを比較することで、富士山が想像できないほど高く大きい山であることを、朱鷺メッセの記事は見出しを、富士山の記事は教師がリライトし、子どもたちに音読させて記事を読み取らせることで、子どもたちにどんなに高いのかを実感させることができた。
- 頭を雲の上に出している富士山の写真については、テレビ画面を使い、より大きく提示した。「おー！！」と感嘆の声が聞かれ、高さをイメージさせるために有効だった。

（２）５年学級活動 「笑顔を広げよう～周りの笑顔が自分の笑顔～」【展開で新聞活用】

活用資料：新潟日報「2016年8月26日の記事」「2016年9月24日の記事」

〈本時のねらい〉

①学習内容・学習課題	相手を喜ばせる活動を成功させるために大切なことについて、
②目指す姿にするための活動・手だて	誰にどんな活動をするか話し合うことを通して、
③本時で目指す姿	自分たちの学級を振り返り、人を喜ばせるためには、まず自分たちが笑顔で仲良く協力することが大切であることに気づき、学級の友達の気持ちを考えながら、仲良く協力しようとする前向きな意気込みを記述できる。

〈本時の実際〉

学習活動	T：教師の働き掛け C：児童の反応 ○：問題 ◎：学習課題 （※：省略部分の概略）
活動の概要を確認する。	※ 本時は全2時間中の2時間目で、「これまでの学級の成長を確認し、誰をどのように喜ばせたいかを話し合う」学級会の続きから。
それぞれ分かれて活動するか、一緒に活動するか話し合う。	○（議題） 笑顔を広げるために、個人や小グループで活動するか、みんなでまとまって活動するか。 C1：これから「C51学級会」を始めます。まずどちらが良いか意見と理由を聞いていきます。 C2：それぞれ喜ばせたい人が違うから、私は分かれて活動した方がいいと思う。 C3：私はまとまって活動した方がいいと思う。その方がみんなで協力できて楽しいから。 C4：それぞれの意見について、質問や心配なところはありませんか。 C5：私はまとまってやると、喜ばせる相手が一人になるので、自分の希望がかなわなくなるのが心配だな。 C6：私も、自分の希望が叶わなかった人がやる気をなくして協力しなくなるような気がするよ。 C7：みんなで仕事を分担すれば、責任もってやってくれると思うよ。 T1：活動を成功させるには、学級として何が大切だと思いますか。 

それぞれ分かれて活動するか、一緒に活動するか話し合う。	◎この活動を成功させるために、大切なことは何か。 T2 : 新聞記事があります。空欄には何という言葉が入るでしょう。 C8 : 吹奏楽部がステージ発表で見せるものだから、「楽器」かな。 T3 : この記事にも空欄があります。ここにも同じ言葉が入ります。 C9 : 「〇〇で応援」とあるから、「本気」かな。 C10 : 盛り上げるものだから、きっと「笑顔」だよ。 C11 : 私たちの活動も「周りに笑顔を広げる活動」だから、「笑顔」が大切なんだね。 T4 : 誰が「笑顔」になることが大切なのでしょう。 C12 : 周りの人たち。 C13 : でも、新聞記事の吹奏楽部もチアリーダーも自分たちの笑顔のことを言っているよ。 C14 : 周りの人を笑顔にするには、自分たちが笑顔になることが大切なんじゃないかな。 C15 : 確かに、自分たちがつまらなそうだったら、相手も嬉しい気持ちにはなれないよね。 〈まとめ〉 周りの人に笑顔を広げるには、自分たち全員が笑顔で活動を進めることが大切。 ※ まとめを視点に話し合いが続けられ、個人・小グループと全員での間をとった「中グループ」で行うという案にまとめ、学級会は終了した。
話し合いの振り返りを行い、考えをまとめる。	T5 : 今日の話合いを基に、自分の考えを振り返り、これからどんな気持ちで活動に取り組んでいきたいか、意気込みを書きましょう。



〈本時の新聞活用の反省〉(成果○・課題△・代案□)

○ 二つの新聞記事の「笑顔」という言葉に着目させるため、その部分を空欄にして提示した。その後、誰の笑顔かを問うことで、自分たちの活動に結び付けて考えさせることができた。また、写真で興味を引き、短く加工した文章を提示することで、時間を短縮することができた。

△ 児童に気付かせたい学級の課題に新聞記事を通して気付かせることは、自分たちを客観的に見つめることができ、有効な手立てと言える。しかし、課題に合致し、かつ、児童にとって身近な話題の記事を見付けることがとても難しかった。また、話し合いの展開によっては、事前に準備する記事の内容と児童の捉える課題との間にずれが生じる場合もある。

□ 普段からたくさんの記事に目を通し、学級の様々な課題ごとに活用できそうな記事をストックしておく必要がある。

4 成果と課題

(1) 成果

①N I E 研究発表会に向けて全校体制での研修を実現することができた。

N I E 研究発表会へ向けて、新聞活用の在り方を探るために、教育ビジョンに次の二つの項目を設定した。また、学校評価の対象項目とした。

ア「新聞を活用した授業を学期1回以上実施した。」

イ「授業における新聞の活用方法について協議し合う学年会を開いた。」

上記二つの評価はともに、100%である。また、学級担任以外の教職員も本研究発表会に向けて係を分担し仕事を行い、全校体制で研修を行うことができた。

②新聞は全教科・領域の教材になることを確認できた。

全校体制の研修で教科・領域等を限定せずに全職員が一人一人の教科専門性を生かし、子どもが思考する授業をほとんどの教科・領域で行うことができた。

③授業の導入で新聞を活用することは、考える意欲付けや意欲喚起を行わせることに有効である。

実践からは、新聞に掲載された写真を提示し、子どもたちの意欲を高めていた授業が多い。導入においては、視覚に訴える教材として新聞に掲載された写真を提示することも有効であることを表している。

④授業の展開で新聞を考える対象として活用することでより深く学ばせることができた。

実践からは、教科書とともに、新聞を活用することで子どもが考えをより広く、深くもてたことができたという授業が多かった。

⑤授業の終末で新聞を活用することは、考えを補完させたり適用させたりすることに有効である。

実践からは、授業の終末において新聞を活用することは、本時の学びを定着させたり、次時への見通しをもたせたりすることに有効であることが分かった。

(2) 課題

①子どもたちに新聞のどのような素材をどのように提示するか吟味する必要がある。

新聞記事は、そのまま教材として使えることは少ない。学習材として書かれていないからである。授業で活用するには本時のねらいや子どもの実態を考慮し、新聞記事のどの部分をどのように加工して使うのか熟慮する必要がある。

②新聞の読ませ方を継続的に身に付けさせていくことが大切である。

授業で新聞の読み取りに時間がかかることは授業展開にとっては困ることである。そのため新聞の読ませ方を継続的に身に付けさせていく必要がある。例えば、「見出し」→「リード」→「本文」といった読む順序を意識させることや必要に応じてサイドラインを引かせるなど内容理解を助けるための方法である。

③授業のまとめや振り返りと関連付けた「終末での活用」を蓄積させるよう努める必要がある。

「導入活用」「展開活用」「終末活用」という視点でNIEの授業実践を行ってきた。2年間の授業実践を振り返ると、「導入活用」や「展開活用」が多かった。「終末活用」は、わずかな実施回数であった。これは、授業の終末では、新聞を活用する時間が十分に取れないことや終末の段階で子どもたちに提示したい新聞記事がなかなか見付からないことが大きな要因である。授業のまとめや振り返りとどのように関連付けて提示すると効果的か今後も考えていく必要がある。